

昭和19年		昭和20年	
月	日	月	日
6	6	4	4
6	15	7	11
6	30	7	15
7	15	8	18
7	30	8	24
8	15	8	28
8	30	8	30
9	4	9	4
9	15	9	15

軍令陸甲第五五号により編成下令
 浜江省哈爾濱において歩兵第九〇連隊独立混成第七連隊、搜索第五七連隊補充
 隊を基幹として編成完結
 齊々哈爾濱に移駐
 五又溝に移駐、爾後同地付近の警備ならびに陣地構築中日「ソ」開戦
 師団命令により新京に後退のため五又溝出発
 西口付近において「ソ」軍と交戦
 西口付近の戦場を離脱、音徳爾に向かう
 音徳爾に到着
 師団主力と合流
 音徳爾において武装解除
 音徳爾より行軍にて興安に向かい出発
 興安収容所に入る
 徳伯斯収容所に移動

搜索第一〇七連隊略歴
 通称号
 満第一七四部隊
 組第二〇〇〇四部隊

2316

	11	11	10	10	10
	6	4	26	20	4
	連隊長	少佐	進藤義彦	齊々哈爾第一四作業大隊に編入	齊々哈爾(小民屯)に収容
	滿洲里經由入「ソ」	齊々哈爾出發			德伯斯出發

五の内

昭		昭	
20		19	
年	月	年	月
日	日	日	日
9	8	8	8
8	29	28	11
			9
			1
			11
			下旬
			6
			30
			15
<p>野砲兵第一〇七連隊略歴</p> <p>通称号 満第二三六部隊 旭第二〇〇六部隊</p> <p>概要 軍令陸第五五号により野砲兵第一〇七連隊臨時編成並に阿爾山駐屯砲兵隊隊復 帰下令 浜江省哈爾濱において阿爾山駐屯砲兵隊を基幹として編成完結 第一大隊（九〇野砲） 第二大隊（鞍馬一五榴一新編成）を編成 第三大隊（九四山砲） 興安南省徳伯斯に移動 主力は五叉溝に移動、爾後同地において陣地構築 日「ソ」開戦 新京え転進のため五叉溝出發 この間に索倫、号什台等で戦闘し大なる損害を出した。 音徳爾到着 音徳爾において武装解除、同日同地出發 興安到着</p>			
摘要			

2318

	10	10	10	10	10	9	9
	27	26	20	4	1	13	10
連隊長	滿洲里經由入「ソ」	齊々哈爾出發	齊々哈爾第一六作業大隊編入	齊々哈爾着	德伯斯出發	德伯斯到着	興安出發
大佐							
角田文雄							

2319

昭			至自		昭	昭
20					19	19
3 3			8 8 8 8 8 8 7 5 5		6	6
14 13			28 26 16 14 11 9 5 15		30	15
軍令陸甲第五五号により編成下令 浜江省哈爾濱において阿爾山駐屯工兵隊を基幹として編成完結 同日より同地付近の警備 移駐のため哈爾濱出発 龍江省白城子県境通過 鎮西に移動、同地付近の警備 移駐のため鎮西出発 富拉爾基着、同地付近の警備 富拉爾基出発 五叉溝到着 日「ソ」開戦 師団の転進とともに五叉溝より新京に向う 西口付近において戦闘 戦場を離脱し「ハマコーザ」を経て音徳爾に向う途中中号什台において戦闘 音徳爾に到着			年 月 日		工兵第一〇七連隊略歴 通称号 満第三三九部隊 出第二〇〇〇三部隊	
			概 要			
					摘 要	

2320

	11	10	10	10	9	9	8
	30	30	24	15	27	1	29
	滿洲里經由入「ソ」	齊々哈爾出發	齊々哈爾（小民屯）に收容され第一八作業大隊に編入	德伯斯出發	興安收容所より行軍にて德伯斯に收容	興安に收容	音德爾において武装解除、同日行軍にて興安に向け出發
隊長							
少佐							
永井							
清							

六のナ

2321

昭		19		年		日	要	摘
自		20		月				
至		昭		日				
8	8	8	8	6	6	15	<p>通称号 満四五二部隊 旭第二〇〇二〇部隊</p> <p>輜重兵第一〇七連隊略歴</p>	<p>軍令陸甲第五五号により編成下令 龍江省齊々哈爾において編成完結（第四中隊は阿爾山駐屯勝股隊を基幹として 阿爾山において編成、同地に駐屯） 主力は齊々哈爾附近の警備に任じていたが五又溝に移駐を命ぜらる 本部第三中隊は列車、第一、第二中隊は行軍により齊々哈爾出發 列車輸送部隊五又溝到着 行軍部隊五又溝到着 第四中隊は五又溝に移駐し連隊主力の移駐準備に任じ主力の到着に伴い連隊に 復歸した 日「ソ」開戦により各中隊は五又溝出發 新京方面へ転進の命をうけ本部第三、第四中隊は自動車により転進、途中索倫 付近において「ソ」軍と交戦し音徳爾一大戦を経て前部旗に到着、同地におい て武装解除 列車にて同地出發</p>
31	30	11	9	30	6	15		

至自		至自		昭										至自																	
				20																											
10	10	10	10	10	9	9	9	9	8	8	8	8	8	8	11	10	9	9													
29	27	27	26	26	2	25	15	13	8	30	25	15	13	11	24	10	29	23													
満洲里經由入「ソ」		齊々哈爾出發		齊々哈爾第一六、第一七作業大隊に編入		齊々哈爾(小民屯)到着		列車により徳伯斯出發		徳伯斯到着		興安出發		興安着		音徳爾において武装解除、同日同地出發		号什台において交戦		戦場離脱爾後師団主力と行動を共にす		戦進途中西口付近において「ソ」軍と遭遇歩兵第一七八連隊と協力		第一、第二中隊は新京方面転進を命ぜられ五又溝出發		黒河經由入「ソ」		公主嶺出發		公主嶺兵舎に収容、公主嶺第二作業大隊に編入	

六のト

	<p>齊々哈爾殘留隊 主力が五叉溝に移駐時織部見習士官以下四〇名は齊々哈爾に殘留、開戦時に第四軍の命令により列車にて哈爾浜に転進、爾後哈爾浜所在部隊と行動を共にした。</p> <p>隊長 少佐 錦 織 喜八郎</p>

昭和											年 月 日	第一〇七師団通信隊略歴
20												
10	10	9	9	8	8	8	8	8	8	6		
20	15	15	3	30	23	17	12	9	13	27	15	概 要
<p>齊々哈爾において第一五作業大隊に編入</p> <p>徳伯斯より斎々哈爾に移動</p> <p>行軍にて徳伯斯に移動</p> <p>行軍にて興安に移動</p> <p>音徳爾において武装解除</p> <p>号什台において交戦</p> <p>西口において交戦</p> <p>師団命令により部隊は新京を目標に移動開始</p> <p>五叉溝において日「ソ」開戦</p> <p>移駐のため阿爾山出発、興安省五叉溝着、陣地内通信線の建設作業</p> <p>興安北省阿爾山において阿爾山駐屯通信隊を基幹として編成完結</p> <p>軍令陸甲第五五号により第一〇七師団通信隊臨時編成下令</p>												通称号 満第三七一部隊 組第二〇〇二一部隊
												摘 要

2325

		10 10
		26 22
	隊 長	齊々哈爾出發 滿洲里經由入「ソ」
	少 佐	
	中 三 次 郎	

昭		年		月		日		至		自		至		自	
20	5	5	5	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
10	10	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
20	15	6	4	29	27	26	24	16	15	13	10	9	31	1	
<p>第一〇七師団兵器勤務隊略歴</p> <p>通称号 胆第一三九五九部隊</p> <p>概要</p> <p>軍令陸甲第七五号により編成下令 興安北省五又溝において歩兵第九〇、第一七七、第一七八連隊の兵器勤務要員 を基幹として編成完結 五又溝において開戦 師団の新京転進により五又溝出発 西口戦闘参加 「ハマコーザ」に集結 号什台の戦闘参加後、音徳爾に移動 音徳爾着 音徳爾において武装解除 興安に収容 徳伯斯に移動 齊々哈爾(小民屯)に移動 齊々哈爾第一六作業大隊編入</p>															
<p>摘要</p>															

2327

	10	10
	27	26
	隊長	齊々哈爾出發 滿洲里經由入「ソ」
	中尉	
	森	
	康	
	信	

		至自 至自										昭	年 月 日	第一〇七師団病馬廠略歴 通称号 出第一二〇六二部隊													
10	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	7	5			5	概 要											
20	下旬	3	29	26	24	15	13	11	9	7	18	14			7		摘 要										
齊々哈爾第一六作業大隊に編入		德伯斯より齋々哈爾收容所に移動		德伯斯に一ヶ月滞在		音德爾より德伯斯に向け行軍、		音德爾到着、同日武装解除		号什台において交戦		西口付近において交戦		五又溝発、部隊は新京に向つて移動		日「ソ」開戦		五又溝着		五又溝に向かい出発		師団病馬の收容業務		龍江省齋々哈爾において編成完結		特臨編第五〇号により編成下令	

2329

04902

10 10

27 26

齊々哈爾出発
満洲里經由入「ソ」
廠長

大尉
神田
清

2330

050.

昭											昭	年 月 日	第一〇七師団防疫給水部略歴	
20											19			
10	9	9	8	8	8	4	4	4	4	6	6	概 要	通称号 満第三九四部隊 出第二〇〇二七部隊	
20	30	1	29	11	9	18	9	9	8	30	15			要
<p>軍令陸甲第五五号により編成下令 浜江省哈爾濱において編成完結 同地にあつて師団各隊の防疫に従事 移駐のため哈爾濱出発 浜江省肇東県境通過 龍江省齊々哈爾濱、同地付近の警備 五又溝に移動 五又溝において日「ソ」開戦 新京に転進のため五又溝出発 興安南省音徳爾到着、同地において武装解除 音徳爾より興安を経て徳伯斯まで行軍 徳伯斯出発齊々哈爾濱に向かう 齊々哈爾濱</p>													摘要	

2331

65002

至自至 自至自

11 10 10 10 10 10

30 29 30 27 30 20

齊々哈爾第一七、第一八作業大隊に編入

齊々哈爾出發

滿洲里經由入「ソ」

部隊長

少佐

佐久間 栄 枝

九の内

2332

昭										年	
20											月
至	自	至	自	至	自	至	自	至	自		
9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	7	
30	28	15	13	3	1	22	15	9	5	10	
<p>黒河経由入「ソ」</p> <p>四平出発</p> <p>四平第一、第五作業大隊に編入</p> <p>四平揚木林において武装解除後同地の陸軍官舎に収容さる</p> <p>停戦</p> <p>第三九師団（藤兵団）と四平付近において戦闘準備</p> <p>日「ソ」開戦とともに第四四軍の司令官の隷下となり頭初に逃南に於てその後</p> <p>基幹として在満召集者をもつて編成完結</p> <p>四平省四平において四平陸軍戦車学校および独立戦車第一旅団よりの転属者を</p> <p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p>										概	要
										摘	要

独立戦車第九旅団司令部略歴

通称号

満第五八三部隊

奮迅第三七六〇二部隊

要

摘要

2333

			昭
			20
	11	10	10
	26	22	10
	旅 団 長	黒河 経由 入「ソ」	旅 団 長、副 官、部 員の行 動 新 京 特 別 将 校 大 隊 に 編 入 新 京 出 発
	大 佐	北	
	武 樹		

2334

昭		至自 至自 至自										昭		年 月 日	戦車第五一連隊略歴	通称号 奮迅第三七六〇三部隊							
20												20					概 要						
10	10	9	9	9	9	9	9	8	8	8	8	7											
30	28	30	25	15	14	12	1	22	15	9	5	10	日										
新京南嶺収容所において混成第二作業大隊に編入		四平発、新京着		一部の将校の行動		黒河経由入「ソ」		四平出発		四平第一、第二作業大隊に編入		四平揚木林において武装解除後同地の陸軍官舎に収容		停戦		日「ソ」開戦		として在満召集者をもつて編成完結		四平省四平において四平戦車学校および独立戦車第一旅団よりの転属者を基幹		軍令陸甲第一〇六号により編成下令	
													摘		要								

十の外

66902

	至 昭 21	自 昭 20
	1	11
	26	28
	隊長	黒河経由入「ソ」
	中佐	
	堤	
	驥	

2336

昭										年 月 日	戦車第五二連隊略歴 通称号 奮迅第三七六〇四部隊	
至 自 至 自 至 自												
10	9	9	9	9	9	8	8	8	8			7
30	25	25	13	12	2	22	15	9	5	10	日	概要
四平第四、第五、第一二作業大隊に編入 四平揚木林において武装解除 停戦 日「ソ」開戦 として在満召集者をもつて編成完結										軍令陸甲第一〇六号により編成下令 四平省四平において四平戦車学校および独立戦車第一旅団よりの転属者を基幹	摘要	
四平出發 黒河經由入「ソ」 隊長 少佐 中村正己												

2337

独立速射砲第二九大隊略歴

通称号
 満第九四七部隊
 遠征第一四〇七三部隊

昭		年	月	日	概	要	摘	要
20	1							
9	9	8	8	8	7	4	1	
10	7	20	14	13	12	10	16	
<p>軍令陸甲第九号により編成下令 興安北省海拉爾において歩兵第二五三、第二五四、第二五五各連隊よりの差出人員を基幹として編成完結 海拉爾より龍江省洮南に移駐 第一一七師団長の指揮下に入る。 洮南西北方(約二〇村)五家子に向い前進 途中命令変更され洮南警備のため反転し洮南着 新京に転進(洮南より行軍にて泰来に前進、泰来より列車輸送により新京に向い) 新京(寛城子)に到着、同地において武装解除 新京第九作業大隊に編入 新京出発</p>								

2338

67102

	9
	22
	黒河經由入「ソ」
	大隊長
	少佐
	藤川文雄

2339

野戦重砲兵第一七連隊略歴

通称号 遠征第一〇一三部隊

昭和16年		日	要	
年	月			日
7	7			15
8	7	25	千葉県国府台において編成完結	
8	8	8	神戸港出帆	
8	8	13	大連港上陸	
8	8	16	大連発、閔東州界通過	
8	8	19	牡丹江省綏陽県綏陽着	
8	8	30	移駐のため綏陽出発	
8	7	31	牡丹江省寧安県石門子着、爾後同地付近の警備	
8	8	31	第三軍司令官の隷下を脱し、第四四軍司令官の隷下に入る	
8	1	1	石門子より四平省昌図に移駐、爾後同地付近の警備	
8	8	6	昌図において日「ソ」開戦	
8	8	9	昌図において停戦	
8	8	15	昌図において武装解除、四平楊木林に收容さる	
8	7	17		

2340

	11	9	9	9
	21	29	25	18
連隊長	滿洲里經由入「ソ」	楊木林を出発	四平第一五作業大隊に編入	四平に移動
大佐				
本田				
森造				

										昭	年	月	日	野戦重砲兵第三〇連隊略歴 通称号 遠征第一四〇六三部隊						
										20										
11	11	10	10	10	9	8	8	8	8	8					7					
11	1	31	30	28	9	26	19	9		5	10									
隊長										大佐 西谷常吉										概要
満洲里經由入「ソ」										<p>軍令陸(甲)第一〇六号により編成下令</p> <p>四平省開原において野砲兵第一〇七連隊、独立野砲兵第一四大隊、搜索第一〇七連隊、第六三師團關係からの転入者を基幹として現地応召者をもつて編成完了</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>白城子に転進準備中開原にて停戦を知る</p> <p>停戦にともない開原付近の警備</p> <p>開原において武装解除</p> <p>開原を出発して新京に移動開始</p> <p>新京着</p> <p>新京、混成第五作業大隊に編入</p> <p>新京出発</p>										
																				摘要

		昭 20											昭 19	年 月 日	電 信 第 三 一 連 隊 略 歴 通称号 速征第一二九六八部隊	
		至	自	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭			昭
9	8	8	8	6	6	3	3	3	3	9	9	9	8	7	軍令陸甲第一〇二号により編成下令 奉天省蘇家屯において編成完結 移駐のため蘇家屯出発 東満総省延吉県境通過 間島省間島市に移駐 関総作命第五九八号により間島出発 満支国境山海関通過 中支浙江省杭州着 満支国境山海関通過 第四十四軍司令官の隷下に入る 八面城において日「ソ」開戦 奉天に移動、同日停戦 奉天において武装解除 奉天において第二〇作業大隊に編入	要
上	20	15	12	18	17	16	11	8	7	24	23	22	31	29		

十二の内

2343

	10 9
	5 14
大隊長	奉天出發 黒河經由入「ソ」
少佐	
西田伯三	

2344

677

<p>年月日</p>	<p>昭 19 6 5 30 16</p>
<p>第二遊撃隊略歴 通称号 満第五三部隊 遠征第一三九四部隊</p>	<p>要 当部隊の前身は、昭和十六年の関特演により関東軍司令部第二課の指導により昭和十六年九月四平省昌図において編成要員を満軍より臨時抽出し磯野部隊（隊長、満軍少校磯野実一）を編成した。その任務は外蒙軍の侵攻に対し遊撃戦闘の展開にあつたが、出動することなく、訓練ならびに作戦準備を実施。昭和十八年三月興安南省興安に移駐。移駐直後兵員の大部を除隊、一部の入替えを実施（注除隊者の一部を選抜し縁③工作隊員として国境付近の拠点構築作業に任せしめた） 軍令陸甲第五五号により編成下令 興安省興安において興安憲兵隊、同特務検閲から差出人員を基幹として満軍（蒙系を含む）を加えて関東軍直轄部隊として編成完結</p> <p>編成 本部 中隊……五（内一は機関銃中隊）</p> <p>以後対象作戦の遊撃拠点の構築ならびに訓練の実施</p>
<p>摘要</p>	<p></p>

2345

昭						
20						
8	9	9	8	8	8	8
11	17	16	12	10	9	
<p>第四四軍司令官の隷下に入る</p> <p>日「ソ」開戦</p> <p>各中隊はそれぞれ準備した遊撃拠点に向かい展開し作戦行動に入る。</p> <p>部隊主力（本部、四中、檢中）の行動</p> <p>興安を出発以後次のとおり行動</p> <p>醴泉街（龍江省）↓土列茂杜（興安南省、科爾沁右翼中旗）↓魯北付近（興安西省）↓高力板（興安南省、科爾沁右翼中旗）↓孔家窩柵（通遼県）↓鄭家屯（通遼県）↓四平省開原に向かう</p> <p>開原に到着</p> <p>付近の山上において部隊解散（部隊長 自決）自由行動となつた各分離群は南下し、鉄嶺に至り、同地において越冬後、翌年帰国した者、さらに撫順に至り同地より帰国した者、また行動中「ソ」軍に捕えられ入「ソ」した者等多種多様である。</p> <p>一部（第一、二、三中隊）の行動</p> <p>第一中隊は興南街を出発醴泉街付近の遊撃拠点に向かう途中、蒙系満軍の反乱により、部隊は混乱しその後の行動状況は不明</p>						

	8	8
	13	12
<p>第二中隊は、興安出發察爾森（興安南省）に向かったが、第一中隊と同様の状況と推測されその後の行動状況は不明</p> <p>第三中隊は興安出發「ハンヌム」(汗廟)（興安西省？）の遊撃拠点に向かい出動したが、その後の行動状況は不明（同行の蒙系満軍が北方に反転し索倫（興安南省）方面に行動したという資料もあるが、確否については不明）</p> <p>隊 長 少 佐 松 浦 友 好</p>		

2347

		至 自										昭		年 月 日	第四七野戦道路隊略歴								
至	自	20	19	19	18	16	16	16	16	16	16	16	16			通称号 遠征第三六一九部隊							
7	5	4	4	8	8	8	3	3	5	5	8	8	7				概要						
30	3	28	3	13	8	5	23	20	10	6	8	5	16	摘要									
通遼↓開魯の沙漠地帯の道路建設作業		同地出発		鞍山被爆復旧作業に従事		奉天省鞍山市着		海拉爾出発		興安北省、海拉爾着		山神府出発			黒河省瑗瑯泉山神府着、同地において警備ならびに道路構築作業に従事		東寧出発		牡丹江省東寧着同日より同地付近の道路構築作業に従事		通遼において編成完結		特臨編一六令附第一一四号により編成下令
														摘要									

昭							
20							
至	自	至	自	8	8	8	8
10	10	9	9	8	8	8	8
18	3	20	18	25	20	13	10
<p>阿爾山伐採作業のため出動、作業地光頂山到着</p> <p>奉天文官屯に移動命令により南下</p> <p>文官屯到着</p> <p>文官屯において武装解除</p> <p>奉天第一二作業大隊に編入</p> <p>奉天出発</p> <p>黒河経由入「ソ」</p> <p>隊長 少佐 佐々木 林吉</p>							

十四の内

2349

		昭 20		昭 16		昭 16		昭 10		昭 7		昭 7		昭 7		年 月 日	兵 站 勤 務 第 七 五 中 隊 略 歴	通 称 号 遠 征 第 一 三 八 七 部 隊	
		至 自		至 自		至 自		至 自		至 自		至 自		至 自					概 要
		10	10	9	9	9	9	9	9	8	7	7	7	7	7				
		30	18	25	16	10	2	2	15	10	30	16							
隊 長		黒河經由入「ソ」 四平出発 四平第三、第四作業大隊に編入 四平において武装解除 四平において停戦 東安より四平警備のため、四平に移駐 特臨編第一六令附一〇二号により編成下令 東安において編成完結、同日より同地付近の警備																	
大 尉 秋 川 勝 彌																			
																摘 要			

2350

昭		昭		年	
21		20		月	
5		8		7	
7		28		10	
隊長		大尉		竹原秀三	
<p>大部の者は応召前の住所（鉄嶺、大連等）に帰還 蘆島經由で帰国した</p>		<p>同日において部隊解散</p>		<p>同日において武装解除</p>	
		<p>鉄嶺において鉄橋修理作業中停戦</p>		<p>爾後鉄嶺附近の警備</p>	
		<p>日「ソ」開戦</p>		<p>奉天省鉄嶺において現地応召者を主体として編成完結</p>	
		<p>軍令陸甲第一〇六号により編成下令</p>		<p>通称号 遠征第一四〇六八部隊</p>	
		<p>要</p>		<p>独立自動車第一一二大隊略歴</p>	
		<p>概</p>		<p>要</p>	

2351

													昭和			
													16	17		
													年	月		
													日	日		
昭	昭	昭	昭													
20	19	18	17													
8	7	6	9	11	7	9	8	8	8	8	8	8	8	7		
13	21	10	5	3	25	1	30	29	26	21	19	4	16			
<p>同日出発</p> <p>四平省鄭家屯に移駐</p> <p>第三軍司令官の隷下を脱し第四四軍司令官の隷下に入る</p> <p>間島省金蒼に移駐</p> <p>第二軍司令官の隷下を脱し第三軍司令官の隷下に入る</p> <p>第二軍司令官の隷下に入る</p> <p>琿春到着</p> <p>興東州境通過</p> <p>大連出発</p> <p>大連上陸</p> <p>門司出帆</p> <p>久留米出発</p> <p>久留米市第五四部隊において編成完結</p> <p>特臨編一六令附第一〇八ノ一号により編成下令</p>													概	要		
													摘	要		

独立輜重兵第七三中隊略歴

通称号 遠征第六七六六部隊

2352

	11	10	10	9	8	8	8
	30	9	7	1	25	15	14
隊長	黒河経由入「ソ」	奉天市出発	奉天第五七作業大隊に編入	奉天市北陵に移動	奉天市において武装解除	停戦	奉天市到着
大尉							
植村正直							

昭													昭	年 月 日	建築勤務第四〇中隊略歴 通称号 遠征第四六四〇部隊							
20													17			16						
8	11	11	7	6	2	2	2	8	8	8	8	8	7			2	2	2	8	8	8	8
奉天着 移駐のため、龍江省富拉爾基出発 興安北省境通過、同日龍江省富拉爾基着 移駐のため免渡河出発 興安北省索倫旗免渡河着 興安北省境通過 移駐のため金蒼出発 間島省汪清県金蒼着 鮮満国境通過 朝鮮麗水上陸 宇品港出発 金沢（東部第五三部隊）において編成完結													特臨編第一六令附第一〇二号により編成下令	概	要							
部隊主力は奉天より鄭家屯および五叉溝に前進準備中、一部は鄭家屯におい														摘要								

2354

至 自							
	10	9	9	8	8	8	8
	15	30	4	3	30	20	13
中隊長	て開戦となる 部隊は奉天に集結すべく郷家屯部隊は奉天に転進 奉天に集結完了、同日市外転進のため奉天北方二〇軒山小屯に移駐 さらに奉天に集合 奉天北陵において武装解除 奉天第一七作業大隊に編入（改編し第一八、第二三作業大隊に編入） 奉天出発 黒河経由入「ソ」						
中尉 奥 渉							

2355

至自													昭 20	昭 19	年 月 日	特設陸上勤務第一二七中隊略歴 通称号 遠征第一四九五七部隊	
8	8	8	8	8	7	6	6	5	5	3	1	1					12
25	18	15	12	9	28	12	10	25			15	3	15	5		概要	摘要
<p>濟陽県平羅堡に移動</p> <p>奉天において武装解除</p> <p>文官屯において停戦後奉天に移動</p> <p>奉天に転進中文官屯着</p> <p>日「ソ」開戦時三光山において伐採作業中</p> <p>伐採のため三光山へ出発</p> <p>奉天省、范家屯に到着同地付近の警備</p> <p>北京出発</p> <p>北京に集結、同地付近の警備</p> <p>河南作戦に参加</p> <p>北支河北省塘古到着、同地に駐屯</p> <p>佳木斯出発</p> <p>三江省佳木斯において編成完結</p> <p>特臨編一九令第二二号により編成下令</p>																	

2356

昭				
20				
10	9	9	8	
15	14	10	27	
	隊	奉天第一八作業大隊に編入	奉天市北陵に移動	
	長	奉天市出發		
		黒河經由入「ソ」		
	中			
	尉			
	中			
	沢			
	巽			

2357

昭 18	昭 16	年 月 日	1	8 7	第一九野戦自動車廠 略歴 通称号 満第四二一部隊・遠征第二六四一部隊	
			概 要			1 16
<p>第三、第四移動修理班を海拉爾において編成</p> <p>出張所 博克圖 蘭屯</p> <p>本廠 第一移動修理班 第二移動修理班 (編成当時海拉爾)</p> <p>補給部 修理部</p> <p>本部</p> <p>編成</p>	<p>特臨編一六令付第一二九号により編成下令 興安北省・海拉爾において関東軍野戦自動車廠、海拉爾支廠所屬者を主体とし、輜重兵第五連隊補充隊(広島)担任の召集者を加えて編成完結編成完結後、興安東省 蘭屯および博克圖に出張所を開設し、第六軍司令官の隷下に入る。</p>			摘 要		

	昭 20	昭 20	昭 19
	7	7	9 8
	25	5 ごろ	15
	<p>同地に駐とし、業務を実施</p> <p>勤務中隊（長中尉吉川哲雄）を海拉爾において編成</p> <p>第三移動修理班は、第六軍の移駐時、同軍司令官の隷下に入り、北支に移駐</p> <p>同時期以降、当部隊は、第三方面軍司令官の隷下に入る。</p> <p>勤務中隊は次のとおり駐とし、業務を実施した。</p> <p>中隊主力 ……博克図</p> <p>中隊の一部 ……蘭屯</p> <p>警備中隊（長中尉宍道恒男）を海拉爾において編成</p> <p>第三方面軍の配備変更に基づき、同軍の隷下を脱し、第四四軍の隷下に入る。</p> <p>本廠以下各支廠、各出張所は次のとおり開設または移駐した。</p> <p>本 廠 ……四平に移駐</p> <p>洮南支廠 ……開設（第一移動修理班が兼務）</p> <p>通遼支廠 ……開設（第二移動修理班が兼務）</p> <p>鄭家屯出張所 ……開設（第四移動修理班が兼務）</p> <p>扎蘭屯出張所 ……</p> <p>博克図出張所 ……</p> <p>〔移駐しなかつた。〕</p>		

2359

至自							昭					昭
							20					20
11	10	10	8	8	8	8	7	9	9	9	8	8
							上旬					8
28	30	22	22	19			10	30	26	12	20	9
<p>日「ソ」開戦前後の各隊の行動、状況は次のとおり。</p> <p style="text-align: center;">四 平 本 廠</p> <p>以降、第三九師団の指揮下に入り、四平および泉溝付近に車輛ならびに資材の分散、担任部隊に対する補給、修理を準備し、自衛戦闘態勢の整備を完了し、開戦後、燃料等の補給に従事。</p> <p>四平において武装解除</p> <p>同地において第一四作業大隊に編入</p> <p>四平出発</p> <p>黒河經由入「ソ」</p> <p style="text-align: center;">洮南支廠（第一移動修理班が兼務）</p> <p>海拉爾より洮南に移駐した第一移動修理班等が主体となつて洮南支廠を開設</p> <p>転進の命により、新京に向かい洮南出発</p> <p>新京着</p> <p>新京において武装解除</p> <p>同地の混成第一作業大隊に編入</p> <p>同地出発</p> <p>黒河經由、入「ソ」</p>												

9	9	9	9	8	8	8	8	7
30	26	12	3	23	20	17	15・12	上旬
支廠長 中尉 吉永政孝 (第二移修班長)	黒河経由入「ソ」	四平出発	四平第一四作業大隊に本廠とともに編入	同地において武装解除	四平着	四平本廠と合流のため、奉天出発	奉天到着	海拉爾より、通遼に移駐した第二移動修理班等が主体となつて通遼支廠を開設。 開戦とともに第一一七師団の奉天地区に転進とともにない文官屯に移動のため通遼出発。
								支廠長 中尉 室谷吉郎 (第一移修班長) 通遼支廠(第二移動修理班が兼務)

2361

昭 20					昭 20				
9	9	8	7	0	9	9	8	8	7
80	26	15		30	26	12	20	9	上旬
<p>出張所長 中尉 吉川哲雄</p> <p>黒河經由入「ソ」</p> <p>四平出発</p> <p>同地の第一四作業大隊に編入</p> <p>四平において武装解除</p> <p>担任部隊の移駐にもない、四平に移駐</p>					<p>出張所長 中尉 宮野伸三（第四移修班長）</p> <p>博克図出張所</p> <p>黒河經由、入「ソ」</p> <p>四平出発</p> <p>同地において第一四作業大隊に編入</p> <p>四平において武装解除</p> <p>四平に移駐</p> <p>出張所を開設</p> <p>海拉爾より鄭家屯に移駐した第四移動修理班等が主体となつて、鄭家屯に</p> <p>鄭家屯出張所（第四移動修理班が兼務）</p>				

				9	9	9	8		8	
				30	26	12	28		9	
				<p>海拉爾殘留隊</p> <p>本廠の四平移駐後、海拉爾に残留し、残務整理に従事 空襲を受け、戦死者をいだした。 本廠に合流のため、自動車により出発、途中自動車故障のため列車により 行動、博克図を經由、四平に至る。 四平において本廠に合流、同地において武装解除、以後、本廠と同行動 四平第一四作業大隊に編入 四平出発 黒河經由入「ソ」</p>						
				本廠長	初代	大佐	楠瀬	正実		
				二代	中佐	平木	秀次郎			
				三代	少佐	坂井	哲			
				開戦時	少佐	鈴木	実			

687									
昭									
17									
4	10	9	8	7	7	7	7	7	7
	下旬		1	20	26	23	21		16
<p>第一九野戦貨物廠 略歴</p> <p>通称号 遠征第二六四六部隊</p> <p>概要</p> <p>特臨編一六令付第一三〇号により編成下令 広島市（工兵第五連隊補充隊）において基幹要員を編成 宇品港出帆 釜山上陸 鮮満国境通過 索倫旗境通過、同日興安北省、海拉爾省 海拉爾において在満部隊の転入者（軍属を含む）を加えて編成完結 興安北省、免渡河および興安東省、博克図に各出張所を設置。当時の配備 は次のとおり</p> <p>本 廠……………海拉爾 出張所……………免渡河 出張所……………博克図</p> <p>第二五野戦貨物廠の編成準備要員として部隊の一部を東安省鶏寧に派遣 鶏寧派遣隊員、海拉爾に復帰</p>									
									摘要

2364

昭 20	7 5
8 8 8 8 8	9 13 14 15 17
<p>興安南省、德伯斯に出張所を新設</p> <p>部隊主力は、興安北省海拉爾地区より、興安南省鄭家屯地区に移駐。支廠を増設し、配備は次のとおりとなり、第四四軍司令官の隷下に入る。</p> <p>本 廠……………鄭家屯</p> <p>支 廠……………通 遼</p> <p>〃……………白城子</p> <p>〃……………五叉溝</p> <p>出張所……………德伯斯</p> <p>免渡河出張所（長、中尉園田成夫↓見士田淵秀男）および博克図出張所（長、中尉宗重彦）の要員の大部分は、第一八野戦貨物廠要員として転出。残余は本廠に復帰</p> <p style="text-align: center;">○</p> <p style="text-align: center;">本 廠</p> <p>日「ソ」開戦により、戦備態勢となる。</p> <p>列車により、鄭家屯出発、奉天に向かう。</p> <p>奉天着（通遼支廠員合流）</p> <p>部隊全員、奉天出発、安東に向かう。</p> <p>安東省着、同地において武装解除</p>	<p>7 5</p>

昭 20												
9	9	9	8	8	8	8	7		9	9	9	9
25	24	22	17	14	12	10			25	24	22	18
<p>以後「ソ」軍により、同地に抑留された。</p> <p>同地出発</p> <p>奉天着</p> <p>奉天において第四八作業大隊に編入</p> <p>同地出発、黒河經由入「ソ」</p> <p>本廠長 中佐 松村 弘之</p> <p>通 遼 支 廠</p> <p>興安南省、通遼において、当隊および第一八野戦貨物廠の各要員（約二〇〇名）をもつて開設</p> <p>本廠より撤退の命を受け、撤退準備</p> <p>移駐のため、通遼出発</p> <p>奉天着、本廠と合流（以後同行動）</p> <p>安東着、同地において武装解除、以後同地に抑留された。</p> <p>奉天着</p> <p>奉天において第四八作業大隊に編入</p> <p>同地出発、黒河經由入「ソ」</p> <p>支廠長 中尉 貴田 渉</p>												

昭 20		昭 20										
8	8	7		9	9	8	8	8	8	8	8	7
14	12			29	23	30	20	15	14	13	9	
西口付近において「ソ」軍の攻撃を受け、二行動群に分離後、北方に向		<p>白 城 子 支 廠</p> <p>龍江省、白城子に開設</p> <p>日「ソ」開戦時態勢となる。</p> <p>移駐のため、白城子出発、新京市に向かう。</p> <p>新京市着</p> <p>同地において停戦</p> <p>新京市出発、途中、范家屯に滞在</p> <p>吉林省、公主嶺着、武装解除</p> <p>公主嶺において第二作業大隊に編入</p> <p>同地出発、黒河経由、入「ソ」</p> <p>支廠長 中尉 常 田 千 代</p> <p>五 又 溝 支 廠</p> <p>興安南省、^{ウサク}五又溝に開設</p> <p>同地において第一〇七師団各部隊に物資の補給に従事中日「ソ」開戦に至る。</p> <p>第一〇七師団長の指揮下に入り、新京方面に転進のため、五又溝を出発</p>										

2367

昭										
20										
8	8	8	8	7	5	9	9	8	8	8
26	13	12	9	18	26	21	初	28	27	26
<p>かい行動続行</p> <p>一部は、興安南省、音徳爾<small>イントル</small>において武装解除</p> <p>他の一部は、龍江省、土爾池哈着<small>トルチハ</small></p> <p>土爾池哈附近において優勢な「ソ」軍と交戦し、多数の損害を出し、分散行動となつたが、おおむね富拉爾基<small>フルルキ</small>を經由し、斉斉哈爾に向かう。</p> <p>斉斉哈爾に到着、同地において武装解除。</p> <p>部隊の主力は、斉斉哈爾において第七作業大隊に編入</p> <p>同日、同地発、満洲里經由、入「ソ」</p> <p>支隊長 中尉 園 田 成 夫</p> <p>德 伯 斯 出 張 所</p> <p>興安南省德伯斯<small>トボス</small>に海拉爾よりの人員（伯耆見習士官以下一二名）をもつて出張所を新設</p> <p>五叉溝より、要員（約四〇名）を増強</p> <p>日「ソ」開戦となり、戦備態勢となる。</p> <p>德伯斯において切込隊出動し、「ソ」軍と交戦、損害を出した。</p> <p>龍江省、大嶺を経て、白城子方面に後退</p> <p>前郭旗において武装解除、公主嶺に移動</p>										

2368

昭									
20									
9					7				
9		8		8		8		7	
25		24		17		11		9	
20		23							
公主嶺において第二作業大隊に編入		同地出発、黒河經由、入「ソ」		海拉爾 殘留隊					
所長 見士 伯耆 豊次		同代理 伍長 石神 雪吾		本廠の鄭家屯、移駐に際し、約一〇名（長、中尉下村栄作）が海拉爾に殘留					
列車により海拉爾出発、鄭家屯に向かう。		鄭家屯に到着、部隊主力に合流（以後、鄭家屯本廠と同行動）		安東着、同地において武装解除、奉天に移動					
奉天において第四八作業大隊に編入		同地出発、黒河經由、入「ソ」							

2369

				昭				昭				
				20				19				
				9	9	9	8	8	8	7	6	4
				23	6	5	20	10	9	1	10	19
<p>中隊長 中尉 上滝 一男</p>				<p>軍令陸(甲)第四六号により編成下令 龍江省白城子において編成完結(常置員將校一、下士官三) 爾後同地付近の在郷軍人を短期間数度に亘り教育召集実施 現地在郷軍人約一三〇名を召集し白城子市街の警備教育実施 日「ソ」開戦により教育召集中の者を警備召集に切替 「ソ」軍進入により部隊を解散 常置員、中隊長上滝中尉以下四名は兵器資材を焼却後新京に向かい、 出発。 以後、京白線、大森において停戦を知る。 新京(寛城子)着、同地において武装解除 新京において第八作業大隊に編入 新京出発 黒河經由、入「ソ」</p>								
				<p>概要</p>								
				<p>摘要</p>								

特設警備第六〇五中隊 略歴

通称号 遠征第二六九五部隊

概要

摘要

2370

										阿爾山陸軍病院 (関東軍第八三陸軍病院) 略歴		
										通称号 満第九三五部隊 速征第一一六八部隊		
										年	月	日
							昭 20				昭 16	昭 15
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	7	8	7
23	21	19		12	11	10	9	1	1	10		
<p>号什台において戦闘</p> <p>「ハマコーザ」に出発、興安南省、札賚特旗号什台に向う</p> <p>「ハマコーザ」に集結</p> <p>喜扎嘎爾旗「ハマコーザ」に転進</p> <p>吉林省新京へ転進中、興安南省喜扎嘎爾旗西口において戦闘、興安南省</p> <p>五叉溝出発</p> <p>五叉溝に集結、同地において五叉溝分院を掌握</p> <p>五叉溝に転進</p> <p>日「ソ」開戦のため患者全員を龍江省、白城子病院に後送、部隊は五叉溝に転進</p> <p>興安南省喜扎嘎爾旗五叉溝に分院開設</p> <p>以後衛生兵教育ならびに病院業務に従事</p> <p>興安南省喜扎嘎爾旗五叉溝に分院開設</p> <p>軍令陸甲一四附第七一号により編成下令</p> <p>興安南省喜扎嘎爾旗阿爾山において編成完結</p>										概要		
										摘要		

2371

自 至									
	11	11	9	9	8		8	8	8
	16	15	17	16	29		28	27	25
	<p>興安南省札賚特旗、音德爾に向う。</p> <p>音德爾着、同地において停戦</p> <p>音德爾において武装解除</p> <p>興安南省科爾沁右翼前旗、德伯斯に移動開始</p> <p>德伯斯より患者を護送しつつ龍江省斉斉哈爾に向う</p> <p>斉斉哈爾に集結、小民屯に収容</p> <p>斉斉哈爾第二〇作業大隊に編入</p> <p>斉斉哈爾出發</p> <p>滿州里經由入「ソ」</p> <p>院長 軍医少佐 中山勝美</p>								